

REPORT

第1日目 レポート (7/19)

開会式

7月19日 9:30 ~ 10:00 / コンベンションホール



ICAC KOBE は、阪神・淡路大震災から 15 年目の 2009 年より隔年で開催され、2015 年は震災から 20 年目の大きな節目となりますので、昨年 7 月に開催された第 3 回大会に引き続いての開催となりました。初心を忘れないために、毎回、開会式では阪神・淡路大震災当時の様子を編集した動画を上映し、震災の犠牲になった多くの人と動物に黙祷を捧げてきましたが、震災後、兵庫県の動物愛護センター建設にご尽力下さり、昨年不慮の事故によって急逝された貝原俊民前知事と、この会議の準備中の 5 月に急逝された共催団体・近畿地区連合獣医師会の松林驍之介前会長のご冥福を共に祈りさせていただきました。



神戸市保健福祉局健康部生活衛生課長 丸尾登氏



兵庫県動物愛護センター所長 河野寛昭氏

はじめに、実行委員会を代表して、神戸市保健福祉局健康部生活衛生課長の丸尾登氏より人と動物の関わりについて持続的発展、そして人と動物の幸せな未来に対する願いが語られ、次に、兵庫県動物愛護センター所長の河野寛昭氏からは、上映されたビデオを見ながら脳裏に去来した当時の話を交えつつ、人との繋がりや出会いの大切さ、そして国をあげての社会づくりの重要性が語られました。

引き続き、共催団体の近畿地区連合獣医師会を代表して、松林前会長の遺志を引き継ぎ、新たに会長に就任された佐伯潤氏よりご挨拶を頂きました。災害時のみならず、人と動物の両方に関わっている獣医師という立場の責任の重さと、ここに集まった同じ思いを持った皆様に感謝の意が伝えられました。



近畿地区連合獣医師会会長 佐伯潤氏

その後、司会者の公益社団法人 Knots 理事長の富永佳子氏から、ご支援を頂いている皆様の紹介と、会議全体の構成段階からアドバイスを下さった会議アドバイザーのヒト医療識者・竹内勤氏、理学系識者・松沢哲郎氏、文系識者・奥野卓司氏が紹介され、ICAC KOBE 2015 阪神・淡路大震災 20 年記念大会 - One World, One Life が開幕しました。

基調シンポジウム

「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ
— 護るべき大切な日常とは? —」

7月19日 10:30 ~ 13:00 / コンベンションホール



座長 京都大学 名誉教授 位田 隆一氏

開会式に引き続き、この会議全体のベースとなる基調シンポジウムが開催されました。私たちの守るべき大切な日常とは何か、「生き物としてのヒト」から考えるということテーマにして、濃密な議論が繰り広げられました。

小原氏の発表では、「We (私たち)」という隣人としての考え方の枠組みを変えていくことで、この国際会議のテーマでもある「全ての生き物」に対する人間の接し方が変わるという概念を、これまでの人間の歴史の実例を挙げながら分かりやすく提示して下さいました。例えば、アメリカの法律によって認められた同姓婚に対する社会的な考え方などは、時代によって「パブリック (We)」の境界線を変化させることが可能であるということが具体的に示された事例といえます。こうしたパブリックの境界を変化させていくことで、人間中心、隣人中心の「We」の概念を変化させ、この会議のテーマでもある「全ての生き物のケアを考える」という壮大なテーマについての可能性を示唆されました。



同志社大学 神学部 教授 小原克博氏



長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 篠原一之氏

次に、「家族愛の脳科学」と題された篠原氏の発表では、人間にとっての「報酬=愛」を、家族の笑顔を見ることによってもたらされる脳内の前頭前野 (PFC) の反応によって調査するという、非常に興味深い研究内容が報告されました。

情動的・直感的な傾向が強いとされる母親の脳と、理論的傾向が強い父親の脳内の反応が示され、実際には母親的な脳を持つ父親やその逆が生物には多様に存在するのです。そうした多様性こそが、さまざまな状況や環境に適応しつつ次の新しいジェネレーションを生み出してゆく生物の可能性でもあるのです。

また、生殖能力が無くなった後にも他の生物では考えられないような長生きをする人類には、孫に対して母親と父親の脳の両方をバランスよく備え持つ祖母仮説という特殊な愛情の受容形態があり、母親や父親との関係だけではな